

“わたしのまち”

文京区

緑と歴史のまちびじゅり

熊本県と縁が深い、新江戸川公園と松聲閣

「文教のまち」として発展する文京区は、伝統文化や歴史・文化遺産をはじめ、様々な教育機関や個性あふれた博物館、美術館などが多く存在します。区では、生涯学習・スポーツ・文化芸術・観光・国際交流の分野を推進するため「文京区アカデミー推進計画」のもとで、近隣の観光施設等と連携し、地域全体の魅力発信を図っています。今回は、目白台・関口地区の観光資源である新江戸川公園とその周辺地域の魅力を紹介합니다。

「文教のまち」文京区

文京区は、伝統文化や歴史・文化遺産が多く存在するほか、様々な教育機関に加えて個性あふれた博物館や美術館なども多く、「文教のまち」として発展してきました。

区西部の目白台・関口地区は、江戸時代の名残を有する施設等が多く残る地域です。この地域には、明治期に山縣有朋の邸宅であった椿山荘（ホテル椿山荘東京）があり、美しい庭園が残り、初夏には螢、冬には椿といったよきな季節に応じた楽しみがあります。さらに、松尾芭蕉がかつて住んでいた関口芭蕉庵や、大正レトロな風靡の残る鳩山会館、丹下健三の設計による東京カテドラル聖マリア大聖堂などもあ

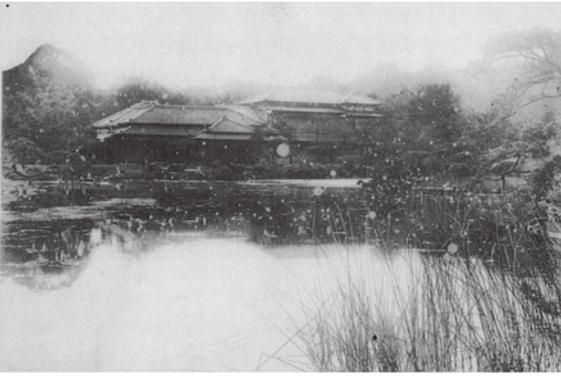
り、各時代の様々な建築美も楽しむことができるほか、永青文庫や野間記念館といった美術館もあります。

そして、この目白台・関口地区は区の中でも特にみどりが多く、四季折々の自然の姿を楽しむことができる地域でもあり、地域一帯が自然と歴史、文化のまちと言えます。

新江戸川公園からはじめる 緑と歴史のまちびじゅり

区では、目白台・関口地区の観光資源の連携を図り魅力を高めるため「新江戸川公園からはじめる緑と歴史のまちづくり事業」を行い、新江戸川公園、松聲閣及び周辺道路の一体的な改修

今昔の松聲閣の様子。古い資料をもとに当時の雰囲気を感じさせる改修が行われたのがわかる（上：永青文庫所蔵写真集「細川侯高田邸新御殿 大正15年6月落成」より 下：現在の松聲閣）



を進めています。

新江戸川公園内にある松聲閣は、明治20年頃に旧熊本藩主の細川家の学問所として置かれ、大正時代に改修を行い、一時期は細川家の住まいとしても使われたと考えられています。老朽化と耐震性の問題から平成18年度以降利用休止となっていました。細川家の資料を保管する永青文庫にある古資料を参考に、歴史性を生かした改修工事を行い、地域の憩いの場、また観光拠点として、平成28年1月16日にリニューアルオープンしました。リニューアルでは、集会室や休憩室などの公園機能の増進を目指したほか、背の高くなつた草木の整理や、松聲閣表庭の竹垣を復元することによって景観性を向上させました。

建屋の改修では、可能な限り既存の木材を使用しつつ、耐震性を確保するために、お城など歴史性の高い建物を保存する際に行われる揚屋工法（柱と屋根をそのままの状態ですべて持ち上げて施工する工法）で工事が行われ、工事見学会では、その工法の珍しさから一目見ようと、たくさんの見学者が訪れました。

新江戸川公園と松聲閣の見どころ

新江戸川公園は、細川家下屋敷の庭園の跡地をそのまま公園にした池泉回遊式庭園で、神田川に落ち込む斜面地の起伏が生かされた、その高低差によって変化に富んだ景観がつくり出されています。台地の湧き水を池に取り入れた鍮り水の手法が使われ、遊歩道の一部が踏み分け道のようになっており、岩場から芝生への細い流れとその周辺には野草があしらわれた趣深い景色が身近に感じられます。

また、四季折々の風情が楽しめるのも魅力の一つです。門外不出の肥後椿、肥後芍薬、肥後花菖蒲、肥後山茶花の四種の花の植栽も見どころとなっており、肥後朝顔、肥後菊とあわせて肥後熊本藩伝統の肥後六花と呼ばれています。春には紅白の梅や桜、秋にはモミジやハゼの紅葉が見られ、冬には松の雪吊りを楽しむことができます。松聲閣も見どころが満載です。館内2階の外壁には下見板張の塗装仕上げを施し、和室の畳の原料

には熊本産の丈夫なイグサが使用されています。また、床の間には、細川護熙元内閣総理大臣自筆の掛け軸が飾ら

れています。さらに回遊式展望所「山茶花」からは、庭園が一望できるのも大きな魅力です。



松聲閣では、春先のさくらウィークで落語や演奏会なども開催された



松聲閣2階の山茶花の間。床の間には、細川護熙元内閣総理大臣から寄贈された掛け軸が飾られている

肥後芍薬



園内に咲く肥後熊本伝統の花「肥後六花」の肥後花菖蒲

改修の終わった松聲閣。庭園の中で往時の雰囲気を感じ出す



新江戸川公園周辺地域の魅力創出事業

区では、新江戸川公園及び松聲閣の整備にあわせ、平成26年度から区内大学や公園周辺の観光施設等と連携した事業を展開し、地域一帯の観光の魅力を発信する事業を進めています。

平成26年度は、周辺地域の魅力を観光ガイドが案内するまちあるきツアーの特別編を実施し、平成27年度には、区内大学のゼミ生と連携し地域を紹介する「目白台・関口おさんぽ帖」を作成・配布しました。この冊子では、目白台・関口地区に音羽までの地域を含めた自然豊富な庭園・公園や、文化施設の見どころを網羅するコースが紹介されています。冊子の中では、学生が自分たちの目線で取材調査した、地域のバリエーションに富んだ魅力的な飲食店も紹介しています。

事業最終年度となる平成28年度は、10月2日(日)まで新江戸川公園に隣接する永青文庫で企画展「歌仙兼定登場」が開催されています。企画展に合わせて実施されているイベントも注目を集めています。松聲閣では9月19日(月)まで、若者に人気のオンラインゲーム「刀剣乱舞-ONLINE-」

のキャラクター『刀剣男士歌仙兼定』の等身大パネルと、刀剣展示記念イラストが展示されています。ほかに、8月20日(土)から9月19日(月)まで目白台・関口周遊スタンプラリーの企画などが予定されており、来訪客の回遊性を高める取組が進められています。

新江戸川公園と周辺地域のこれから

公園の名称も、庭園の成り立ちを尊重した名称に変更されます。永青文庫や近隣町会による選定委員会が設置され、今年7月から公募を開始し、10月には新名称が発表される予定です。来年3月中旬の改正式典では、熊本復興支援イベントも開催する予定です。

また、今後は、第二庭園や樹林部、周辺道路の整備などを行う予定です。東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、多言語に対応した案内板等も設置され、平成29年度に全ての工事が完了します。

新たな公園として整備が進む新江戸川公

園と周辺地域のまち歩きは、私たちに尽きない魅力を見せてくれることでしょう。



28年9月19日まで、新江戸川公園「松聲閣」では、「刀剣男士歌仙兼定」の展示を実施している

文京区と熊本

文京区は、夏目漱石や小泉八雲、細川家のゆかりの地となっていることから、熊本県と共通の文化や歴史資産に恵まれています。区は文化・歴史・観光・広報などの各分野において相互連携を図ることとし、平成27年10月21日に熊本県庁において熊本県・熊本市・新宿区と文京区の4者間で「文化と歴史を縁とする包括協定に関する覚書」が締結されました。

4月に発生した熊本地震では、文京区はこの覚書を締結する熊本市からの要請により、支援物資を輸送しました。

平成27年10月21日、熊本県庁にて熊本県・熊本市・新宿区の4者間による「文化と歴史を縁とする包括連携に関する覚書」を締結した



あわせて、「津和野町と文京区における相互協力及び災害応援に関する協定」及び「森鷗外ゆかりの地津和野町北九州市及び文京区における文化振興及び地域活性化に関する協定」を締結する島根県津和野町を通じて、飲料水の支援も行いました。

そのほか、区役所や松聲閣などで義援金を受け付け、被災地へ被災建築物応急危険度判定や罹災証明発行のための職員を派遣するなど、一日も早い復興に向けた積極的な支援を行っています。



東京都トラック協会文京支部を通じて手配したトラック2台により支援物資の輸送を行った。